



農業をカッコよく！！

心あったかニュース

日本の農業はどうなっているのか？気になることがNHKのニュースWebにありました。農業を希望している人が1年で10倍に増えているそうです。頼もしいことに20代30代の年齢が多く、コロナの影響で収入が減ったり、リモートワークで働く場所にこだわらなくなったことが影響しているようです。農林水産省の調べでは、農業従事者は5年間で46万人減少し152万人となった。産業として農業を持続させていくには多様な若者を農業に呼び込む必要があることを発表しています。若い人の農業での成功をカンテレ報道ランナーで放送したようです。村田翔一さん35歳は、ネギを生産する農家です。一人で農業を始めて3年で年間売り上げが1億円従業員30人を抱える企業にした注目の若手農家です。ファームで働くのは、20代30代と若い人。力を入れた土づくりで育った、ネギは京都祇園のお店も太鼓判を押す品質です。全国100件の

取引先にネギを届けています。最初から順風だったわけではないように、台風で畑が全滅したことをきっかけに、数十キロ離れた場所にも畑を持ち、リスクを分散することで1年間途切れない安定供給が可能となったそうです。また、作るだけでなく、スーパーで流すレシピの動画を制作したり、新商品の白くて甘いトウモロコシに、舞妓さんの肌の白さを関連させて、京都舞コーンと命名。舞妓さんが畑にたたずむ姿が注目され、即完売となったそうです。育てた野菜が消費者に届くためには、農業にもプロモーションが必要と考えています。4月から入社する坂本哲也さんは、北海道で農業をまなんでいました。ここに惹かれた理由は

ホームページのカッコよさも大きかったようです。カッコいいはめちゃくちゃ大事なこと。農業っていうのはなんかこう高齢者っていうか上の世代がやってるっていう感じがなんですけど、30代や20代が率先してやってるって形は珍しいので「代表の村田さんは、みんながいきいきと働く、カッコいい農業でありたい」と考えています。今後は若い世代の子たちに職業の一つとしてしっかり選択していただけるような産業にしていくためにも、

“カッコいい”に越したことはないかなというか。そこをこだわるといのは、自分が好きでこだわっているんですけど。そこは追及していかれたらいいなと思っていきます”

編集後記

いいネギづくりにかかせないのが、いい土地そうです。それには、近隣の農家のアドバイスがあったそうです。長い間の苦労と経験を、快く若者に伝えるのも、すごくカッコいいな、と思います。カッコいいは顔とか服とかじゃなくて、生き方なんだと思います。自分の仕事に誇りがあること。その誇りは、多くの人のためになっただけで、てくるのだとおもいます。日本の農家はこれまで、これからはカッコいいのだと思います。